

国際会長 (IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)

“Mission with Faith”

「信念のあるミッション」

アジア地域会長 (AP) Edward K.W. Ong (シンガポール)

“Through Love, Serve”

「愛をもって奉仕をしよう」

東日本区理事 (RD) 渡辺 隆 (甲府)

「原点に立って、未来へステップ」

“Stand at the origin and take a step for the future”

湘南・沖縄部部長 (DG) 今城 高之 (横浜つづきワイズメン&ウイメンズ)

「一人ひとりが愛と平和の種をまこう」

横浜クラブ会長 (CP) 金子 功

「クラブの伝統に誇りを、明日に自信を」

“Pride and confidence for the future”

会長 金子 功
副会長 高杉 治興
書記 伊藤 誠彦
会計 古田 和彦
直前会長 天野 皓司

監事 舟田 正夫
ブリテン 高田 一彦
担当主事 青木 一弘

<今月の聖句>

大江 浩

そればかりでなく、苦難をも誇りとしします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。

希望はわたしたちを欺くことはありません。

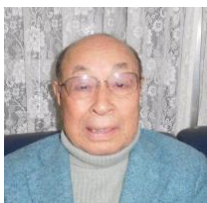
わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

(ローマの信徒への手紙 第5章3-5節)

今月のひとこと

「教会50年」

今村 讚



1966年のイースターで横浜本牧教会に赴任されたばかりの故柿沼慎牧師に信仰告白し教会生活をスタートして今年で50年となる。このいたらぬ者が落第もせずここ迄来られた事は神の支え、皆様との主にある温かい交わりの賜物と深く感謝している。

1930年敬虔なクリスチャンの両親のもとに生を享け幼児洗礼を授かる。父親は熊本で云う「肥後もっこす」の典型で己の価値観に反する事には安易に妥協しない強い人であった。

戦前・戦中キリスト教受難の時代もクリスチャンである事を明確にしていた。その象徴的な事があった。1940年小

学5年の授業中教師から「お前の両親はキリスト教信者と云われている。アーメン・ソーメン」と云われた。この屈辱は忘れる事はない。

また戦前公娼制度があった時代、昭和の初期頃、こともあろうに米国人の女性宣教師と組み、遊郭から娼婦を救出する無謀で命がけの事を敢行している。これは信仰による正義感のなせる業であろう。戦後親に反発して半端でない放蕩の時期があったが齢36歳にして教会に戻った事は両親のクリスト者として言葉だけの観念的でなく行為が優先する生き様が大きな要因となっている。

YMCA・Ys メンの関わりのきっかけは同じ教会員で横浜YMCAにおられた親友故大藤啓矩さんである。

半世紀にわたる教会生活での思いでは沢山あるが三つの事を述べて終わりにする。

一つ目は、先述の故柿沼牧師が1995年のペンテコステの礼拝説教中突如講壇で倒れそのまま天国に召された時の衝撃は忘れられない。壮絶な戦死であった。牧会30年、良き教会形成をなされた素晴らしい牧師であった。

二つ目は、一度も伝道をした事のなかった息子創太から突然「教会に行きたい」と言われた時は青天の霹靂であった。その年の創立記念日に受洗し今や充実した教会生活を送っており御蔭で我が家も三代続いている。

三つ目は、してはならない我が愚行である。1980年頃祈禱会で私に失敬な発言をした者に間髪入れず聖書をぶん投げた事である。瞬間湯沸器と云われる程の短気度も昔と比べたら大分下がっているが、これからも箴言14章29節(1955年改訳版)「怒りをおそくする者は大いなる悟りがあり、気の短い者は愚かさをあらわす」を日毎の糧に良きクリスト者を目指したい。

<2016年5月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
20名 (功労 会員1 名を含 む)	メン 13名	68 % (メーキャップ 名を含む)	今月分	
	メネット 1名		切手	0g
	コメント 0名	前月修正出席 率	現金	0円
	ビジター 1名		年度累計	
	ゲスト 1名		切手	0g
	合計 15名		現金	0円

<6月の行事予定>

評価

日	曜	時間	行事内容	場所
4	金	12:45	第19回東日本区大会	長野
7	火	19:00	第73回Y-Ys協議会	中央Y
9	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
18	土	15:00	第3回部評議会	中央Y
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

[2016年一泊研修会・5月第一例会報告]

古田 和彦

日時：5月6日（金）15：00～7日（土）11：00
 場所：上郷・森の家
 出席者：青木、伊藤メン・メ、今村、遠藤、大高、金子、古賀、齋藤、高田、田口、舟田、古田、松島
 ゲスト・ビジター：池田直子（横浜YMCA職員・講師）加藤利榮（横浜とつか）

計16名

例年行っている一泊研修会兼5月第1例会を、「ワイズライフをより豊かにするために」とのテーマのもと、例年より多くの方々の参加を得て、上郷・森の家で行った。

先ず、5月6日（金）15：00～15：20、伊藤ワイズの司会で5月第一例会。金子会長の開会点鐘、全員によるワイズソング、ワイズの信条の斉唱、高田ワイズによる聖句朗読（ヨハネによる福音書20章11～14節）と解説を行った。

次いで、15：20～17：00、合同研修会1。横浜YMCA広報担当職員の池田直子さんから、「YMCAブランディング・プロジェクトについて」との発題を受けた。

私たちが昨年YMCAブランドに関するアンケートに応じたが、日本YMCA全体で再度、YMCAブランドを再生したいとの動きがあり、講師の池田さんもそのプロジェクトメンバーの一人として活躍している。

「YMCAとは」と問われたときに人によってその答えは様々であるが、これからの時代においてより多くの人にYMCAの価値を認められる「ブランドコンセプト」という土台を作り上げていく活動と筆者は理解した。そして、この活動は、今後絶え間なく継続していく必要がある。この調査とコンセプト作りには業者を使い、多額のお金も使っているようなので、すぐには現れないだろうがその成果を期待したい。

17：00～17：30 ビジネス。①5月～8月の行事予定、②第4回部役員会の報告、その中にはBF代表受け入れ支援を金子会長中心に行うこと含む、③東日本区大会申し込み状況報告（全体で358名、横浜からは8名）、④つづきクラブ10周年記念に金子会長が出席しお祝い1万円を贈ることを決定、⑤横浜中央・北YMCA室内サッカー大会をつづきクラブとともに支援することを決定、⑥熊本地震被災地支援として5万円を寄付することとし、さらに、今後のロハ献金を当てることとする、⑦横浜クラブ会則及び細則の見直し作業を進めており、6月例会に改定案を配布し、7月総会にて審議する、⑧6月例会卓話者（大高ワイズ）の確認等を行った。

18：00から夕食、その後は例のごとく部屋で懇親会、総主事の田口ワイズも合流し遅くまで話し合った。

5月7日（土）、2日目。朝食ののち、9：00～11：00 合同研修会2。古田ワイズの司会のもと、高田ワイズの発題「ワイズの楽しさ」と題して、ワイズメンズクラブの基本となる諸事項を改めて学びなおす。当クラブはうれしいことに1年余りの間に新入会員3名が与えられ、その方々へのオリエンテーションにもなった。横文字のワイズ用語がたくさんあるが、その意味と活動内容も再確認できた。



一泊例会出席者(1日目)

11：00 会長挨拶、閉会点鐘にて楽しく有意義な2日間にわたる研修会と5月第1例会を終了した。

いつもながら、懇親会のため飲み物・つまみを用意してくれている伊藤メン・メネットにこの場を借りてお礼申し上げます。楽しい研修会でした！

「2016年度横浜YMCA会員総会」

高田 一彦

5月28日、とつかYMCAにおいて、2016年度の会員総会が約280名の参加者により開催された。

開会礼拝に続いての総会では、第一号議案として2015年度事業計画及び会計報告が上程され、田口総主事によるスライドでの説明があり、チャリティーランでは615名のランナーによる615万円が献金され、BAPY基金のためにチャリティーゴルフがワイズ中心に開催された事が報告された。第2号議案では、2016年度の全体事業方針・計画案及び予算案が上程され承認を得た。

引き続きは、特別プログラムとして熊本地震緊急支援派遣スタッフの報告会が行われ、冒頭、山根横浜Y前総主事の現地での震災体験が語られ、今回は、熊本YMCA自体を支えることと、現地被災者支援の2本建て支援活動を行っていく事になり、横浜YMCAとしても、4月18日より毎週

2人のスタッフを現地に送り込んでおり、7月16日迄派遣を継続するとの事であった。第3号議案の常議員の選出に続き、第4号議案の会員表彰に移り、総勢55名のリーダーが表彰された。また、「奉仕の書」では、わがクラブの松島ワイズがその荣誉に輝いた。



「奉仕の書」を授与される松島ワイズ

「奉仕の書」は、横浜YMCA維持会員のなかで、YMCAに

概ね20年以上連なっており、年齢60歳以上であることで、横浜YMCAの奉仕の書に名前が記されるというものである。

松島ワイズは、関東学院中高YMCAの関わりをきっかけに、横浜YMCA常議員、常議員会議長などを務め、学校法人横浜YMCA理事・評議員、青少年指導者育成基金事業委員、横浜ワイズメンズクラブなど多岐にわたり、ご奉仕いただいている。また、「1987年から1999年まで10年以上にわたり川崎YMCA運営委員長を務め、川崎YMCAの発展に多大なる寄与をして下さった。」と紹介され、松島ワイズは、「まだまだYMCAのために奉仕をし、横浜YMCA150周年、私が100歳になる時まで頑張りたい。」と挨拶された。

その後、閉会式に移り、茂木雄横浜YMCA理事と田口総主事の挨拶で総会の幕を閉じた。

横浜クラブの出席者は、伊藤ル・ネ、今村、金子、齋藤、高田、田口、古田、松島の9名であった。

「横浜つづきクラブ設立10周年記念例会報告」

金子 功

5月21日(土)横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの設立10周年記念例会が富士山YMCAで行われた。

記念例会のプログラムは4部構成。1部は記念例会、2部は「東日本大震災 あれから5年」と題してのシンポジウム、第3部はBBQパーティー、第4部は室内懇親会と盛りだくさんであった。



設立10周年記念例会参加者

参加者は、十勝クラブや盛岡、仙台、京都YMCA等、遠方からのゲスト・ピジターも含め総勢46名が参加した。

一部の記念例会では、横浜クラブはつづきクラブ設立時のスポンサークラブの一員として東京コスモスクラブと共に来賓として祝

辞を述べる機会を与えられ、金子会長がつづきクラブの輝かしい実績を褒め称えた。

第2部のシンポジウムでは、仙台YMCA村井総主事、並びに盛岡YMCA濱塚総主事から被災地の現状を聞くと同時に、盛岡クラブの井上修三ワイズ並びに大関靖二ワイズから被災の体験談を語っていただき、今日の我々が被災地に対して何ができるかを皆で考える機会を持った。

もう一人のパネリスト、世田谷クラブ小川圭一ワイズの歌を通して、悲嘆にくれる被災者に寄り添う体験談は示唆に富むものであった。「あれから5年」最近の熊本大地震の災害もあって、ついつい忘れがちな東日本大震災の被災者のことを思い続けるための大変意味のある企画であった。

BBQパーティーは場所を変えてかまぼこ型の元牛舎で行われた。林ワイズを陣頭に煙まみれになって焼いてくれる山海の珍味に舌鼓を打った。各テーブルに馳走を運びもてなしのサービスに余念のなかったつづきクラブのウィメンズには特に感謝したい。

当日参加者の約半数は富士山YMCAに宿泊という事で室内懇親会を楽しまれたようである。筆者はBBQ後、とつかクラブ加藤利榮ワイズと退出、一路自家用車で帰浜した。

「人生100年丸」の役割

大高 治



昨年初め、「人生100年時代」という題で横浜市西区のシニアクラブ会報に所属クラブの紹介をしました。そしてその最後を次のように締めくくりました。

「村の渡しの船頭さんは今年60のお爺さん」。日本人の平均寿命が男女共、50歳を超えたのは1947年です。この歌は「若者よ、あの爺さんに負けずに頑張れ」と、戦時歌謡として1941年に作られ、戦後一部が改作され一般歌謡として長く親しまれました。30～40年前まで60歳は立派なおじいさんだったのです。

現在の平均寿命は男80歳、女86歳です。今この歌を改作すれば、「今年90のおじいさん」となることでしょう。人生100年時代に入ったのです。シニアクラブの行事の中に健康寿命を延ばし、歳を感じる日が遠のくような「人生100年時代」の過し方を見出したいと思います。

樋口恵子さんの著に「人生100年時代への船出」なるものがあります。私どものシニアクラブは、月例会で読書会を始めて数年が経ちます。有志が本を選択、概要をまとめて説明し、感想を述べ合うというものです。この5月からは皆での朗読、いわゆる群読を始めました。声を出すことは脳の活性化になり、嚙下の筋肉を鍛えるとのこと。「声を出して本を読む」など、10代以来のことだと思います。声を出したら、意味がスワット頭に入ったという人が居りました。出だし成功です。

私たちは大長寿時代、大介護時代のまっただ中にあり、有史以来の長寿社会に生きています。そして私たちのめざす方向は「人が長生きして幸せになれる社会」をつくりだすこと、「人生100年丸」の初代として、その責任を果たすことだと著者は述べています。

町内のシニアクラブの会長に任じられて7年目に入りました。4月の総会では、本年末での退任を願い出ました。長過ぎてはいけないと思います。一方、上部機構でのスポーツ部員の役は続けられると思います。6月上旬の輪投げ大会の準備が始まりました。

各種の習い事や集まりに参加して来た人、また何かの役をして来た人と、そうでない人では前者の方が「要介護者」が少ないとのこと。

ワイズメンズクラブに入会してまだ1年弱。私にとって若人支援の活動はこれからです。若人から良い刺激を受けるものと思います。「人生100年丸」初代の役割は、何かをしてまずは自分の健康寿命を延ばし、併せて周りの方々のお役に立てたなら、素晴らしいことだと思います。

第二例会報告

伊藤 誠彦

日時：5月26日(木) 17:00～19:00

場所：横浜中央YMCA 501号室

出席者：青木、伊藤、金子、齋藤、高田、古田

協議・確認・報告事項は次の通り。

- ①今後の行事予定の確認
- ②天野ワイズの退会申入れ(健康上の理由)の受入れ決定
- ③BF代表の来訪中止
- ④8月例会・納涼会の開催日を8月25日で調整(例年通り、今村ワイズに会場(驛の食卓)確保をお願いします)
- ⑤熊本地震支援は熊本YMCA復興支援を中心にする
- ⑥金子ワイズがJEF(東日本区ワイズ基金)委員に就任予定
- ⑦古田会計より5月一泊研修会の会計報告、及び、クラブ会計の今期の見通しについて報告
- ⑧クラブ会則等の見直し作業・協議を実施(7月総会での議決を目指す)
- ⑨7月総会の資料準備担当者の決定



担当主事 青木 一弘

熊本地震緊急支援報告

横浜YMCAでは、4月16日から熊本地震緊急支援募金の呼びかけを行っています。県内のYMCAにおいて既に25回を超える街頭募金での呼びかけや各館に設置された募金箱、会員やボランティア、地域の方々による募金は、2,450,693円(5月10日現在)が寄せられています。募金は、6月30日まで1千万円を目標に各YMCAにおいて呼びかけを続けていきます。引き続きご協力をお願い致します。

<募金の方法>

神奈川県下のお近くのYMCAへ、または、下記にお振り込みください。

郵便振替先：口座番号：00230-8-2878

加入者名：公益財団法人横浜YMCA

※以下のどちらへの使途先かを明記ください

①熊本地震被災者支援、②被災YMCA支援

■BAPY基金 はまっこチャリティーコンサートのご案内

横浜中央YMCAでは、今年度のBAPY基金キャンペーンを受け、チャリティーコンサートを実施します。お時間のある方は、是非ご参加ください。

日時 6月26日(日) 13:30～16:00 ※開場 13:00

場所：横浜中央YMCA 9Fチャペル

内容：ピアノ弾き語りによるコンサート

対象：一般

参加費用 大人 ￥2,000 (小学生以下無料)

出演 Kah o*&エソラビト(戸塚密着型、ピアノ弾き語りシンガーソングライター)

問い合わせ 横浜中央YMCA 1階総合受付

045-66-3721 (代表)

※BAPYは“Be A Partner of the Youth”の頭文字をとったもので、「子どもたち(青少年)のパートナーになろう」という意味です。

6月例会プログラム

日時：6月9日(木) 18:30～20:30

場所：横浜中央YMCA 501号室

司会：伊藤ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 金子会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 全員
3. 今月の聖句 大江ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 金子会長
5. 食前感謝 大江ワイズ
6. 食事
7. 卓話 「Finland, 知られざる親日国から世界へ」
講師：大高 治 ワイズ
8. ビジネス・報告 金子会長・他
9. *Happy Birthday* :
成瀬零史(18)、松島美一(18)
10. 閉会点鐘 金子 会長

例会報告：古田ワイズ

7月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会 総会	中央Y
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは横浜YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-641-5785